

議会議案第29号

ホームドアの設置と「内方線付き点状ブロック」の整備促進を求める意見書の提出について

ホームドアの設置と「内方線付き点状ブロック」の整備促進を求めることに関し、次のとおり意見書を提出する。

平成28年12月22日提出

提出者	鎌倉市議会議員	岡	田	和	則
同	同	上	長	嶋	竜 弘
同	同	上	渡	邊	昌一郎
同	同	上	上	畠	寛 弘
同	同	上	松	中	健 治

## ホームドアの設置と「内方線付き点状ブロック」の整備促進を求める意見書

本年8月、東京メトロ銀座線青山一丁目駅で、盲導犬を連れていた視覚障害者の男性がホームから転落し死亡するという大変痛ましい事故があった。また10月には、近鉄大阪線河内国分駅で、全盲の男性がホームから転落し特急電車にはねられ亡くなるという事案が発生した。

平成28年3月末現在、1日に10万人以上の乗降客がある全国251駅のうちホームドアが設置されている駅は77駅にとどまっている。また全国約9,500駅のうちホームドアの整備が完了しているのは665駅である。JR鎌倉駅においても昨年度で1日の平均乗車人数は44,376人に及ぶが、正月三が日や行楽シーズンの土日、花火大会の実施日等はこの平均値をはるかに上回る乗車人数であり、ピーク時間のホームには乗降客であふれ返り、危険な状況が散見されている。

駅の安全対策の観点からも列車との接触や転落防止に効果が高いホームドアや転落防止柵の設置は急務である。

また、ホームドア等が設置されるまでの対策として、視覚障害者がホームの内側を判別できる「内方線付き点状ブロック」の整備も重要である。現在、1日の利用者が1万人以上の駅での整備率は63%であるが、早急に全駅において整備を進めるべきである。

よって国におかれては、視覚障害者を初め駅利用者が安心して駅ホームを利用できるよう、ハード、ソフト両面における総合的な転落事故防止対策の検討を急ぐとともに、駅ホームのさらなる安全性向上に向け、下記の事項について取り組むよう強く要望する。

### 記

- 1 ホームドアの設置に当たっては、全ての鉄道駅ホームの危険箇所の実態調査を速やかに行うこと。とりわけ、転落の危険性が高い駅については、現在計画中の駅と合わせて、速やかな設置を実現すること。
- 2 「内方線付き点状ブロック」の整備については、全駅での整備を促進すること。
- 3 ソフト面の対応として、希望者への駅係員のアテンドや、視覚障害

者への積極的な声かけ等、事故を未然に防ぐ対策を強化すること。  
以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成28年12月27日

鎌倉市議会